
長中魂



平成28年10月24日(月)

第18号

伊豆の国市立長岡中学校だより

文責 守野 和弘

かつらぎ祭文化の部を振り返って

第3ステージ「団結」が終了し、今は第4ステージ「充実」がスタートしています。かつらぎ祭・文化の部を通して得たものや、これからの目標を明らかにしていくため、生徒は作文を書いて振り返りました。今号では各学年1名ずつ、その作文を紹介したいと思います。



・3年4組 齊藤さん.....

中学校生活最後のかつらぎ祭が終わりました。やることがいっぱいありすぎて目が回りそうだった日々も今考えてみればあっという間に過ぎ去っていました。



7月、生徒会役員選挙が行われ、当選。嬉し涙を流してから二か月、待っていた生活は決して楽しいことばかりではありませんでした。オープニングセレモニーの案が出ず、焦る気持ちとは裏腹に、刻一刻と迫ってくる文化の部。思うように練習が進まないクラス合唱。声が出ず、先生方に迷惑をかける学年合唱。どれもが重荷として私の肩にのしかかり、押しつぶされそうでした。けれど、そんな時に支えてくれたのは先生方、吹奏楽部の大切な仲間でした。

その支えがあったからこそ、つらい時期を乗り越えることができたのだと思います。

そして当日。オープニングセレモニーで笑ってくれるのかと本当に心配でしたが、お客さん、生徒のみんなを楽しませることができたと思います。吹奏楽部交流演奏では、これでラストステージだと思えば涙が溢れて止まりませんでした。そして迎えたクラス合唱。今まで手と手を取り合ってきた3年4組と歌う“友”～旅立ちの時～。結果こそ出ませんでした。思いが一つになり、世界に一つだけの、そして最高の歌になったと思います。

大好きな仲間とあと半年弱、駆け抜けていきます。3月、30色の最高の涙を流せるように！



・2年1組 大川さん・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

私たちのクラスは「空駆ける天馬」を歌って金賞をとりました。金賞も嬉しかったけれど、とてもいい歌が歌えたと思えたことが何よりもよかったです。

初めはちゃんと歌っていなくて言うことを聞かない人もいたけれど、最後には本当に真面目にしっかりと歌っていました。パートリーダーとして前で聴いているとき、みんなが本気で歌うとこんなにもカッコいいものなのだと感動しました。

文化の部は、もう一つ、吹奏楽部としてもステージに上がりました。先輩たちは文化の部が終わると引退になってしまうので、最後の演奏でした。それはとても悲しく、これから部長としてやっていく私は不安も感じましたが、最後は楽しみたいと思い、思い切り楽しみながら吹きました。「ディズニー・セレブレーション」では初めてのメロディで大好きな先輩と一緒に立って吹けたので、幸せでした。演奏自体も上手くいったし、お客さんも結構楽しんでくれたので、大成功でした。

歌もみんなで団結して金賞がとれ、吹奏楽部の演奏では先輩たちが最後で悲しかったけれど上手くいって、とても楽しかったです。

来年も、私たちは3年生として大成功させられるように頑張ります。



・1年1組 岩田さん・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

まず、1組が銀賞をとれたこと。すごく嬉しかったです。ぎりぎりまでクラスのみんなが一つになれず、もう1組は終わったなって思っていました。でも、それでもみんなが歌いたかったから、声を掛け合って練習しました。初めは声の音量も小さく、気持ちも入っていなかったから、たくさん注意されて、アドバイスをもらって、いっぱい練習して、素敵な合唱になるように頑張りました。本番直前に外で練習したとき、やっぱり歌うのは楽しい、本番も楽しく笑顔で歌おう！って思いました。

私はパートリーダーとして、みんなのお手本になるように歌いました。家でも、授業でも、休み時間でも声を出していっぱい練習しました。でも、金賞をとるために頑張っていたから、少し悔しい思いはあります。この悔しさを来年のかつらぎ祭につなげていきたいと思えます。

2・3年生の合唱を見て、格好いいなあって思いました。1年生にはない声量や、きれいなハーモニーがあって、来年は私たちもこんな風に歌えるのかなあ……。ちょっと心配です。でも、先輩たちを目標にして、みんなを感動させられるようなステキな合唱をしたいなと思いました。かつらぎ祭、とても楽しかったです。

